

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2024年8月7日

事業所名：DOLPHIN e 教室

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。  
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。(単位：%)

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保		75	25	活動スペースは確保されているが、安静スペースが十分とは言えない。カーテンや衝立を使用して工夫は行っている。	78.6	14.3		7.1	安静スペースがあればいいなと感じる	安静のためのスペースとして、カーテンや衝立を利用して工夫している。活動内容に応じて、公民館やスポーツセンターなど場所を変えて活動する。
	2 職員の適切な配置		50	50		78.6	14.3		7.1		人員は満たしているが、よりよい支援ができるように、増員を検討している。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	50	25	25	マットや衝立を利用して環境の構造化を図っている。	85.7			14.3		マットや衝立を利用して環境の構造化を図っている。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	25	50	25		92.9			7.1		感染の拡大を防ぐためにも、必要に応じて除菌クロスでの清掃、一日の終わりには、ハイター液での清掃を行っている。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	100				/	/	/	/		支援前後の振り返りの時間、定期MTの際に、意思統一を図っていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			100	第三者による外部調査を行うように計画していく	/	/	/	/		今回のアンケート結果より、「わからない」との回答をうけたところは、周知できるように発信していく。また、「いいえ」の回答に関しては改善を図っていく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	100			定期的にオンライン研修などを活用し行っている。研修費用の補助をしている。	/	/	/	/		
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	75	25			92.9			7.1		意思決定・表出が難しい児童に対して、ニーズ把握のために、家庭や学校での様子の情報共有を行っていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	100				92.9			7.1		
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	100				/	/	/	/		

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	100						85.7		14.3	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	100						/	/	/	
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	100						92.7		7.1	リーダー制を設け、日々の支援が広がるように工夫している。
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	100			全体スケジュールの提示、個別スケジュールや手順を視覚化して支援にあたっている。				/	/	外出や行事などの、平常の活動以外は、しおりを作成するなど、視覚でのお知らせを活用する。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	100						/	/	/	支援前のMT時に利用児童の担当、支援内容の役割分担を再度確認している。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	75	25					/	/	/	口頭で伝え、記録に残すことで、情報共有を図っている。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	100			支援計画に紐づけした、記録用紙を作成し、目標を意識して支援にあたっている。				/	/	
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	100						/	/	/	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	100						/	/	/	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	100						/	/	/	十分とはいえない。相談支援事業所や学校との連携はできているが、地域の福祉、医療との連携が課題である。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
関係機関との連携（続き）	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	50	50			/	/	/	/		保護者を通じての連絡となっている。
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	100				/	/	/	/		
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	100				/	/	/	/		
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	75	25			/	/	/	/		必要に応じて。研修は積極的に参加し、その後の、報告会実施し周知に努めている。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供		50	50		35.7	14.3	7.1	42.9		活動することはあるが、報告や周知ができていないと感じた。広報誌などを通じて周知に努める。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	25	50	25	事業所で主体で開催することはないが、地域行事に参加するようにしている。今年度は1月に地域の方も招待する行事を企画中。	/	/	/	/		
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	100				92.9			7.1		
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	100				85.7			14.3		支援計画に沿った丁寧な説明、分かりやすい言葉を使い説明していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	25	50	25	ペアレントトレーニングはしていないが、利用中の様子を見学してもらい、支援の方法などを説明し、家庭でのかかわり方などを聞き共有している。	57.1	14.3		28.6		

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	100				85.7	7.2		7.1	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	100				71.4			28.6	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	50	50			28.6	21.4	21.4	28.6	親子行事を開催し保護者交流会を設けているが、機会が少なく、参加者も少ない。どのような形で開催すれば多くの方に参加してもらえるかが課題となっている。保護者とのワークショップを検討中。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	100				57.1			42.9	
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	100				85.7			14.3	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	100				92.9			7.1	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	100				92.9			7.1	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	100				85.7	7.2		7.1	Lineを活用し周知を促しているが、十分でないところがあるため、紙ベースでの周知も行っていく。事業所内に掲示する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	100				100				

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
非常時等の 対応（続き）	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	100				/	/	/	/	
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	100				/	/	/	/	
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応		100		現在、対象児童なし。	/	/	/	/	
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	100				/	/	/	/	詳細を記載し、支援会議で話し合いを行い、再発防止に努めている。